

花咲線（釧路～根室間）
第2期事業計画（アクションプラン）

花咲線（釧路～根室間）第2期事業計画（アクションプラン）

－ 目 次 －

●序章	・・・・・・・・・・ 1ページ
(1) はじめに	
(2) 策定経緯	
●第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について	・・・・・・・・・・ 2ページ
●第2章 基本的事項	・・・・・・・・・・ 2ページ
(1) 位置づけ	
(2) 推進母体	
●第3章 花咲線のおかれた状況	・・・・・・・・・・ 3～4ページ
(1) 関係市町村の状況	
(2) 花咲線の状況	
(3) これまでの協議状況	
●第4章 取組方針	・・・・・・・・・・ 4～5ページ
(1) 目的	
(2) 基本指標	
●第5章 具体的取組内容	・・・・・・・・・・ 5～6ページ
(1) 基本方針	
(2) 具体的取組内容	
●第6章 今後の進め方	・・・・・・・・・・ 7ページ
●別冊 第1期計画1年目報告書	
●別添資料	

序章（はじめに）

(1) はじめに

この計画は、花咲線（釧路～根室間）を維持・活性化するため、3年間でJ R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む内容を事業計画（アクションプラン）としてまとめたものである。

(2) 策定経緯

- 厳しい経営状況におかれたJ R北海道は、平成28（2016）年11月に単独では維持困難な線区を公表して、地域の関係者と協議を行ってきた。
- このような中、平成30（2018）年7月国土交通省は、J R北海道に対し、「J R北海道の経営改善に向けた取組」を着実に進めるよう監督命令を発出した。
- 監督命令に基づき、令和元（2019）年度及び令和2（2020）年度を「第1期集中改革期間」とし、J R北海道と地域の関係者が一体となって、利用促進やコスト削減などに取り組むとともに、持続的な鉄道網の確立に向け徹底的な検討を行うため、事業計画を（以下「第1期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定した。
- 令和2（2020）年8月5日、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証結果を国土交通省へ報告し、着実に取組が行われていることが確認された。
- 令和2（2020）年12月12日、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）2年目第2四半期までの取り組み状況を国土交通省へ報告した。
- こうした取り組みを踏まえ、令和3（2021）年度から令和5（2023）年度までの第2期集中改革期間に取り組む事業計画（以下、「第2期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定することとした。

第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について

監督命令に基づき、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証を行った。なお、報告書は別冊のとおりである。2年目の検証は令和3年度に行う。

第2章 基本的事項

(1) 位置づけ

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、J R北海道の徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みを構築するために、監督命令を受けたJ R北海道と地域の関係者が協力しながら、「監督命令」で命じられた「第2期集中改革期間」の3年間に具体的に取り組む内容を記載したものである。
- 将来に向けて線区の持続性を確保するため、この計画を共に取り組むことを通して、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。
- J R北海道と地域の関係者は、集中改革期間における取組の結果を毎年度検証し、最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証も行う。

(2) 推進母体

- J R北海道を代表とする委員会を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置し、地域の関係者の協力を得ながら取り組む。
- このため、第2期事業計画（アクションプラン）の推進を目的とする「花咲線アクションプラン実行委員会」（以下「委員会」という）及び事務レベルの「幹事会」を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置する。

※ 花咲線アクションプラン実行委員会及び幹事会について

- ① 取組主体 J R北海道（委員会事務局）
- ② 関係者
 - 以下の市町村の首長（委員会）、担当者（幹事会）
釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、根室市
別海町、中標津町、標津町、羅臼町、白糠町
 - 広域行政機関
北海道
 - オブザーバー
国土交通省

第3章 花咲線のおかれた状況

(1) 関係市町村の状況

- 別添資料 1～3 ページのとおり

(2) 花咲線の状況

- 別添資料 4～18 ページのとおり

(3) これまでの協議状況

- 平成28(2016)年11月18日JR北海道が「当社単独では維持困難な線区」を公表した後、関係者間で花咲線における持続的な鉄道網のあり方について議論が行われてきた。
- JR北海道は、花咲線を維持していきたいと考えているものの、単独では維持することが困難な状況にあることから、持続可能な交通体系のあり方について地域の皆様に問題提起を行った。
- 北海道は、「鉄道ネットワーク・ワーキングチーム・フォローアップ会議」を開催し、地域での議論を踏まえて「北海道の将来を見据えた鉄道網（維持困難線区）のあり方について」をとりまとめるとともに、平成30(2018)年3月にはこれを踏まえて「北海道交通政策総合指針」を策定した。
- これらの中では、花咲線は次のとおり位置づけられた。

① 花咲線の現状

- 北方領土返還運動の拠点である北方領土隣接地域を結ぶ唯一の路線であり、隣接地域の振興や住民の生活の安定はもとより、今後、北方四島における共同経済活動による交流拡大を図る上で、重要な役割を果たすことも期待される路線である。釧路～根室間の高規格幹線道路については、一部が開通済であるが、未整備となっている区間がある。札幌圏とを結ぶ特急列車は運行されておらず、主に通学や通院など、住民の日常生活で利用されているが、一部利用の少ない区間もある。

② 花咲線のあり方について

- 北方領土返還運動の拠点として重要な役割を有する北方領土隣接地域における鉄道の役割を十分考慮するとともに、国の北方領土対策や高規格幹線道路整備の状況も踏まえつつ、地域における負担等も含めた検討・協議を進めながら、路線の維持に最大限努めていくことが必要と考える。

- 平成 29 (2017) 年 4 月に釧路地方総合開発促進期成会 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会、5 月に根室地方総合開発期成会根室本線花咲線対策特別委員会、平成 30 (2018) 年 7 月には根室本線花咲線対策沿線地域連絡協議会が設立され、地域における花咲線の維持存続に向けた協議が進められた。
- 平成 30 (2018) 年 7 月 27 日には、国土交通省から J R 北海道に対して「J R 北海道の経営改善について」監督命令が発出され、J R 北海道の経営改善に向けた取組を前提として鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区に対する方針が示された。
- 監督命令は、J R 北海道に対し、「維持する仕組み」を構築していくための前提として、令和元 (2019) 年度及び令和 2 (2020) 年度を「第 1 期集中改革期間」として、当社と地域の関係者が一体となって、利用促進や経費削減等に取り組み、持続的な鉄道網の確立に向け、2 次交通を含めたあるべき交通体系について、徹底的に検討を行うことを命じた。
- J R 北海道は、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、第 1 期事業計画 (アクションプラン) を策定し、利用促進と経費節減等に取り組んだ。四半期毎に進捗状況の確認などを行った。
- 監督命令は、「第 1 期集中改革期間」の検証を行い、着実な取組が行われていることを前提として、令和 3 (2021) 年度から令和 5 (2023) 年度までの「第 2 期集中改革期間」に移行するとともに、第 1 期集中改革期間の検証結果を第 2 期集中改革期間における取組に反映させることを命じている。
- J R 北海道は、監督命令を厳粛に受けとめ、北海道交通政策総合指針を尊重する所存であり、花咲線を維持するため、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、「第 2 期集中改革期間」の取組を第 2 期事業計画 (アクションプラン) として策定し、履行する。

第 4 章 取組方針

- J R 北海道は、徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みの構築を行うために、地域の関係者のご協力を得ながら、地域の関係者と一体となり、利用促進、経費節減などの取組を進める。
- 監督命令に基づき、事業の抜本的な改善方策の検討に向け、J R 北海道と地域の関係者は、最終年度 (令和 5 (2023) 年度) には総括的な検証を行う。

(1) 目的

- 花咲線を持続的に維持していくためには花咲線の収入を増やし経費を削減することが必要不可欠である。

- このため、JR北海道と地域の関係者は、この計画を進めることにより、収支改善に資する具体的な取組を進める。
- ※ なお、収支改善については、この計画による具体的な取組以外にも、長期的な利用者の減少傾向や設備投資による減価償却費の増減など、様々な変動要素について分析し、状況を把握することとする。

(2) 基本指標

- 第1期計画開始前の基本指標は次のとおりである。基本指標とあわせ関連指標の推移も確認しながら進める。

① 収支状況

平成29(2017)年度(第1期計画開始前) △1,110百万円
(営業収益163百万円)、営業費用1,272百万円)

② 輸送密度

平成29(2017)年度(第1期計画開始前) 264人/日

※関連指標

駅別乗車人員、列車別乗車人員、駅間別乗車人員、駅間通過人員、定期券発売枚数 等

- 花咲線の基本指標について、長期減少傾向、新型コロナウイルスの影響がある中でも、第1期計画開始前(平成29(2017)年度)と同水準を維持したいと考え、最終年度(令和5(2023)年度)の目標とする。検証の際は、以下の基本指標とともに、駅間輸送人員や発売実績などの関連指標も参考とする。

① 収支状況(目標)

令和5(2023)年度(第2期計画終了時期) △1,110百万円

② 輸送密度(目標)

令和5(2023)年度(第2期計画終了時期) 264人/日

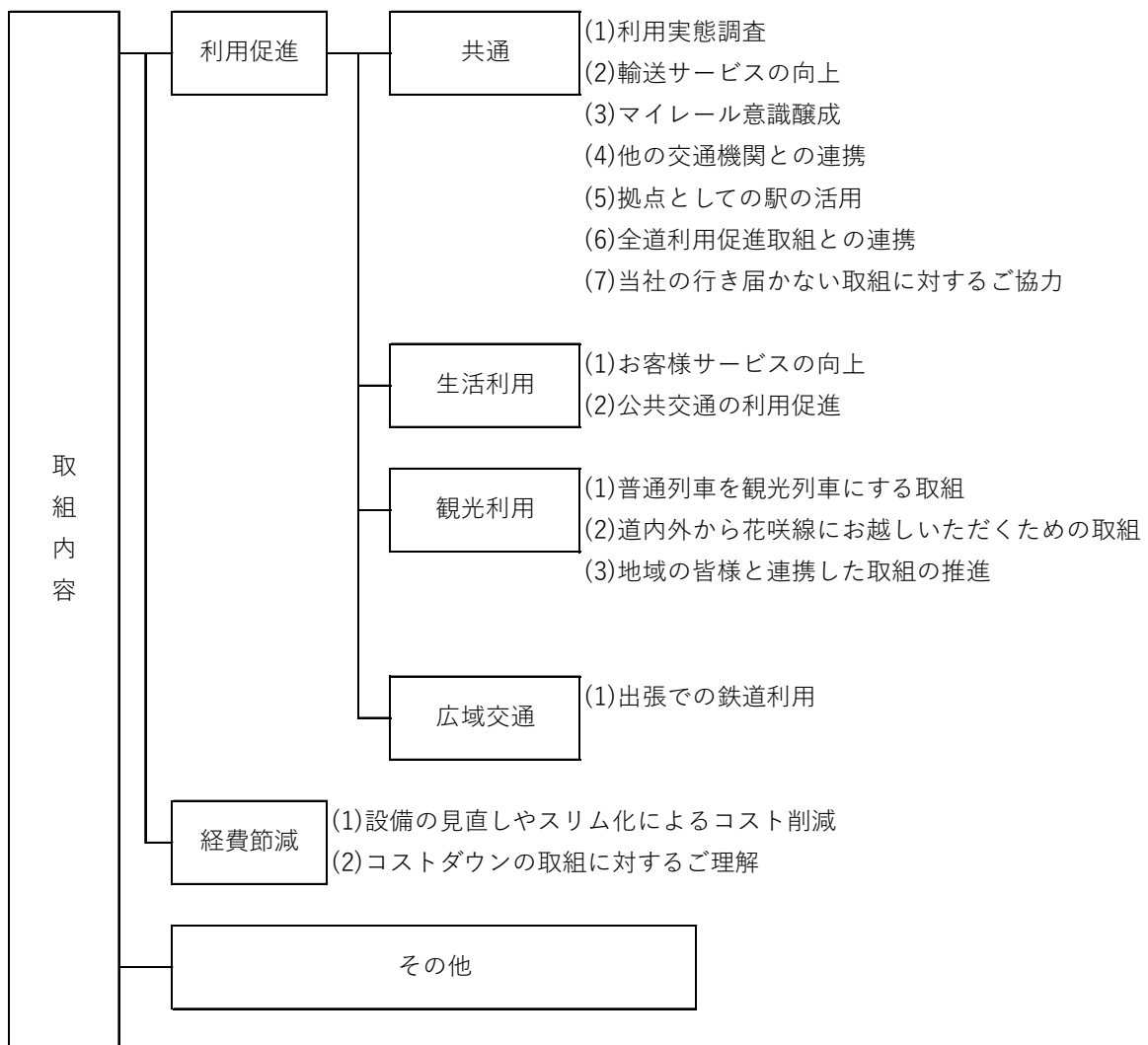
第5章 具体的取組内容

(1) 基本方針

- 道内外から花咲線にお越しいただくための取組等を推進することで観光線区としての特性を最大限発揮する。
- 利用促進、経費節減の取組を推進し、線区の収支改善を図る。
- 日常の生活利用の観点から、地域住民の皆様へマイレール意識の醸成を進める。

(2) 具体的取組内容

- 取組内容の構成は以下のとおり。また、具体的取組は別紙のとおりである。
 - ・ 「利用促進」「経費節減」の二つの観点から整理する。
 - ・ 「利用促進」については、ご利用形態に即して「共通」「生活利用」「観光利用」「広域交通」に分類して整理する。
 - ・ それぞれの取組内容について事業主体と具体的な取組内容を記述する。



第6章 今後の進め方

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、JR北海道と地域の関係者が一体となって取り組む。
- PDCAサイクルに基づき必要な見直しを行いながら進める。具体的には、基本指標、関連指標や計画に盛り込まれた取組内容に基づき、利用促進や経費節減に向けた取組の実施結果、指標の推移状況について、委員会・幹事会において状況報告・意見交換や取組状況の検証を行う。
- こうした状況報告・意見交換や取組状況の検証を踏まえ、必要に応じて第2期事業計画（アクションプラン）の見直しを行うとともに、基本指標についても年度実績をもとに必要により見直しを検討する。
- 「第2期集中改革期間」の最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証を行う。

		第1期	第2期集中改革期間												令和6 (2024) 年度			
		令和2 (2020) 年度	令和3(2021)年度				令和4(2022)年度				令和5(2023)年度							
		IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
P	事業計画完成・公表	●																
D	取組の実施		←—————→															
	状況報告・意見交換		・	・	・	・												
C	取組状況の検証(令和3(2021)年度)		・	・	・	●												
A/P	必要な見直し		・	・	・	●												
D	取組の実施						←—————→											
	状況報告・意見交換						・	・	・	・								
C	取組状況の検証(令和4(2022)年度)						・	・	・	●								
A/P	必要な見直し						・	・	・	●								
D	取組の実施										←—————→							
	状況報告・意見交換										・	・	・	・				
C	取組状況の検証(令和5(2023)年度)										・	・	・	●				
C	総括的な検証										・	・	・	●				
A	持続可能な交通体系																	————→

●：実行委員会、・：幹事会

P (P L A N)：計画（目標及び計画の策定）

D (D O)：実行（取組の実施）

C (C H E C K)：点検・評価（取組状況や効果の把握・評価（実行委員会での意見を踏まえ改善する））

A (A C T I O N)：見直し（取組の改善・見直し（年度毎に利用促進策や経費節減策等を見直す））

花咲線 具体的取組

I. 利用促進

1 共通

取組内容		事業主体	スケジュール							
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 利用実態調査	①統計値では掌握しがたいお客様の層等を掌握する実態調査の実施	JR北海道 全自治体								
	②花咲線利用可能性調査の実施	自治体 JR北海道								
(2) 輸送サービスの向上	限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様のご意見をお聞きする意見交換の実施	全自治体 JR北海道								
(3) マイレール意識の醸成	①JR北海道問題に対する関心を高める取組 広報誌やホームページ等を活用し鉄道特集記事を掲載	全自治体 その他								
	②リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について利用者にご理解頂く資料の作成	JR北海道								
	③生活科見学の一環としてJR体験 乗車及び駅業務見学の実施	自治体 JR北海道								
	④「COOL CHOICE」の取組みやノーマイカーデー実施による鉄道利用促進	自治体								
(4) 他の交通機関等との連携	①バス、タクシー等との相互連携の推進									
	ア. ダイヤ改正時のダイヤの相互連絡の改善	全自治体 JR北海道 その他								

取組内容		事業主体	スケジュール					
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
	イ. 鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み作りに向けた協議を実施	全自治体 JR北海道 その他						
	②地域公共交通計画の実施							
	ア. 駅を町内の交通拠点(交通結節点)として利用しやすい町内公共交通ネットワークを構築	自治体 JR北海道						
	イ. 鉄道とバス等を組合せた域内総合時刻表の作成・配布	自治体 JR北海道						
(5) 拠点としての駅の活用	③地域公共交通計画の実施 利用状況を踏まえた利用促進等の検討	自治体 JR北海道						
	①駅の交通拠点化	自治体						
	②観光案内所・売店の設置等							
	ア. 観光案内所	自治体 JR北海道						
	イ. 売店	JR北海道						
	③駅舎の整備							
	ア. 待合室の駅設備の改修など	JR北海道						
	イ. Wi-Fi環境の維持・管理	JR北海道						
(6) 全道利用促進取組との連携	北海道鉄道活性化協議会との連携	全自治体 JR北海道						

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(7) 当社の行き届かない取組 に対するご協力	駅的环境美化の取り組み	自治体 その他									

2 生活利用

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) お客様サービスの向上	サービスレベルの向上	JR北海道									
(2) 公共交通の利用促進	①乗車運賃等への助成制度導入										
	ア. 市民団体等と連携したイベント等の企画・実施・協力 並びに活動団体に対する助成制度の創設	自治体									
	イ. 幼稚園、学校行事等に対する補助	自治体									
	ウ. 高齢者等の移動に対する運賃補助	自治体									
	②シンポジウム、意見交換会の実施										
	ア. 行事等で鉄道利用を促進・要請	自治体									
イ. 行事等での鉄道利用を実施する団体	自治体										

3 観光利用

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 普通列車を観光列車にする取組	普通列車を観光列車にする取組										
	ア. 地球探索鉄道花咲線ラッピングトレインの運行	全自治体 JR北海道 その他									
	イ. ルパン三世ラッピングトレイン、地元のバス、タクシーラッピングや駅舎、市内飲食店などキャラクターパネル展示と連動した取組	全自治体 JR北海道 その他									
	ウ. いつもの列車で観光気分の取組	全自治体 JR北海道 その他									
	エ. 列車内でご当地弁当を楽しめる取組	全自治体 JR北海道 その他									
	オ. 見どころを減速して運行する取組	全自治体 JR北海道 その他									
(2) 道内外から花咲線にお越しいただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施										
	ア. JAL/JR北海道 ひがし&きた北海道キャンペーンの実施	JR北海道 その他									
	イ. LCCとタイアップしたフリーパスの設定	JR北海道 その他									
	ウ. 花咲線を意識したツアーの企画・実施	自治体 JR北海道 その他									

取組内容		事業主体	スケジュール					
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
	エ. 旅行企画造成依頼	自治体						
	②閑散期の需要創出 「フリーパス」等を活用した花咲線利用促進の取組	JR北海道						
	③宣伝協力 駅等での宣伝協力	自治体 JR北海道						
	④「花咲線全通100周年事業」の実施	JR北海道						
(3) 地域の皆様と連携した 取組の推進	①観光資源の積極的な活用							
	ア.パンフレットやHPの作成連携	自治体						
	イ.沿線自治体や観光協会等と連携したイベント等の企画・実施・協力	JR北海道 全自治体 その他						
	ウ.特産品・グッズ等の企画・販売	JR北海道 その他						
	エ.観光協会事業で花咲線列車を利用した事業の実施	自治体 JR北海道						
	②SNSでのJR企画等の情報発信	自治体 その他 JR北海道						
	③厚床中学生によるずらん贈り	その他 JR北海道						
	④鉄道を利用した長期滞在者との交流事業	自治体						

4 広域交通

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
出張時の鉄道利用	官公庁・域内事業所等において、札幌などまでの出張時に、花咲線利用に取り組む	全自治体 JR北海道									

II. 経費節減

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 設備の見直しやスリム化によるコスト削減	当社の行き届かない取組に対するご協力										
	ア. 駅前広場の除雪	自治体									
	イ. 駅舎内トイレ清掃	自治体									
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①極端にご利用の少ない駅の廃止についての各自治体との協議	全自治体 JR北海道									
	②極端にご利用の少ない踏切の見直しについての各自治体との協議	全自治体 JR北海道									
	③ご利用の少ない駅トイレの利用停止についての各自治体との協議	自治体 JR北海道									

Ⅲ. その他

取組内容		事業主体	スケジュール							
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) あるべき交通体系について	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討	全自治体 JR北海道 その他								
	②2次交通と連携に向けた検討 鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み 作りに向けた検討	全自治体 JR北海道 その他								
(2) 駅の活用策についての検討	駅の活用策の検討	自治体 JR北海道								
(3) 街づくりについての検討	駅都心部まちづくりの検討	自治体 JR北海道 その他								
(4) その他地域の皆様と一体と なった取組	相互連携の検討	全自治体 JR北海道								

別冊

アクションプラン
第1期計画1年目報告書
(令和元年度)
花咲線

令和2年8月

花咲線アクションプラン実行委員会

1. はじめに

- **本報告書は、平成31年4月9日に公表されたアクションプラン第1期計画1年目の取組状況について、花咲線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。**
- **検証結果を踏まえた上で、主要施策やKPI指標について必要な見直しを行い、より効果的な対応を検討していく。**

2. 基本指標・関連指標の検証

(1) 基本指標の概況

- ・線区別収支は、▲1,108百万円となり、基準とした平成29年度より2百万円改善した。

営業収益は花咲線利用可能性調査事業の実施等により収入が対前年6百万円増加した170百万円（対前年137%）となった。営業費用は、初田牛駅廃止や車両の減価償却費が減少したこと等により対前年1百万円減少した1,227百万円（対前年100%）となった。営業損失は対前年7百万円改善した▲1,108百万円となった。

- ・輸送密度は、238人/日となり、基準とした平成29年度より26人/日減少した。

▼令和元年度基本指標の収支状況

項目	平成29年度 (基準)	令和2年度 (目標)	令和元年度 (実績)	対目標	目標 達成
線区別収支	▲1,110百万円	▲1,110百万円	▲1,108百万円	2百万円	達成
輸送密度	264人/日	264人/日	238人/日	▲26人/日	未達成

3. 具体的取組の検証

(1) 進捗状況

- ・アクションプラン具体的取組の進捗状況は、地域の皆様のご理解とご協力を頂きながら取り組み、目標達成「◎」が2%、達成見込「○」が70%、一部達成「△」が15%、見込無「×」11%、未評価「－」が2%となった。
- ・具体的取組、検証結果等の詳細は別紙を参照。

▼令和元年度アクションプラン進捗状況

進捗状況	件数	割合	コメント
◎	1	2%	「待合室の駅設備の改修」は目標達成。
○	37	70%	「花咲線利用促進PR事業」、「地域公共交通網形成計画の実施」は達成見込。
△	8	15%	「沿線自治体や観光協会等と連携したイベント等の企画・実施・協力」が一部達成。
×	6	11%	「出前教室等の実施」「中長期的な利用促進施策の検討」、「中長期的な経費削減施策についての検討」が見込無。
－	1	2%	「地域の皆様とダイヤ意見交換の実施」が未評価。
合計	53	100%	

4. 令和元年度象徴的な取組について①

取組内容	取組状況等		目標達成
<p>(1)花咲線利用可能性調査の実施</p>	<p>7月13日より「地球探索鉄道花咲線」夏の取組を行った。9月16日までの土日祝日1往復の列車を1両増結し、夏期繁忙期の花咲線利用促進を図るとともに、花咲線利用可能性調査を行うため増結列車内においてアンケート調査を実施した。また、根室駅からエリア観光地を巡るねむろ半島遊覧バスのさっぷ号乗り換え案内看板を設置し、JRとバスとの連携に取り組んだ。</p>		<p>○</p>



(令和元年7月13日撮影・根室駅)



(令和元年7月13日撮影・釧路駅)

4. 令和元年度象徴的な取組について②

取組内容	取組状況等		目標達成
<p>(2)地域の皆様と連携した取組の推進のため観光資源の積極的な活用のため「ヘルシーウォーキング」の実施</p>	<p>5月18日開催「あつけし桜・牡蠣まつり」にあわせ、厚岸駅・まつり会場・観光名所等をめぐる「JRヘルシーウォーキング」を開催した。JRをご利用の約60名がウォーキングに参加した。</p>	 <p>(令和元年5月18日撮影・厚岸駅)</p>	<p>△</p>
<p>(3)花咲線利用促進PR事業として全国高校生地方鉄道大会の誘致</p>	<p>8月1日から3日間、「第8回全国高校生地方鉄道交流会」を根室市にて開催した。企画部門では、高校生の目線で花咲線の課題等を調査・研究し、花咲線の認知度向上と利用促進のための具体策の提言・発表を行い、全国に花咲線利用促進をPRした。</p>	 <p>(令和元年8月3日撮影・根室市)</p>	<p>○</p>

4. 令和元年度象徴的な取組について③

取組内容	取組状況等	目標達成
<p>(4)花咲線利用促進PR事業として根室駅等での記念撮影スポットを増やすことにより花咲線をPRする取組。</p>	<p>10月16日、根室駅の新たな記念撮影スポットとして道内初の「黄色いポスト」が設置された。この取組は、花咲線の維持確保を図るため、地域の団体の方々が主体となって設置した。</p>	 <p>(令和元年10月16日撮影・根室駅)</p> <p style="text-align: center;">○</p>
<p>(5)札幌駅や新千歳空港駅等での宣伝協力</p>	<p>12月18日、札幌駅で花咲線沿線観光PRを釧路町、厚岸町、浜中町が各町のご当地キャラクターとともに沿線ガイドや観光パンフレットを配布し、行った。</p>	 <p>(令和元年12月18日撮影・札幌駅)</p> <p style="text-align: center;">○</p>

5. 令和元年度取組の検証

- ・ J R北海道とアクションプラン実行委員会が一体となって取組計画が推進された。
- ・ 花咲線利用促進 P R 事業の推進や道内外から花咲線にお越しいただくための取組など観光利用促進の取組を推進したため、線区別収支は基準とした平成29年度数値目標を達成している状況にある。
- ・ 厚岸町、浜中町が地域公共交通網形成計画を策定し、駅を交通拠点とした利用しやすい交通ネットワーク構築を進めた。
- ・ 令和2年度も観光利用を促進する取組を予定しており、効果が期待できる。
- ・ 第2期集中改革期間に向けて、観光線区としての取組をさらに推進し、J R北海道、沿線自治体が一体となって花咲線を磨いていきたい。

別紙

I. 利用促進

1 共通

取組内容		事業主体	目標達成	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 利用実態調査	①統計値では把握しがたいお客様の層等を把握するため実態調査の新設	JR北海道 全自治体	○										
	②花咲線利用可能性調査の実施	自治体 JR北海道	○										
(2) 輸送サービスの向上	限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様のご意見をお聞きする意見交換の実施	全自治体 JR北海道	—										
(3) マイレール意識の醸成	①JR北海道問題に対する関心を高める取組 ア. 広報誌やホームページ等を活用し鉄道特集記事を掲載	全自治体 その他	○										
	②リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について利用者にご理解頂く資料の作成	JR北海道	○										
	③出前教室等の実施 教育現場にJR社員が赴く出前勉強会や駅の課外授業受け入れ等で線区に関するPRを行う	JR北海道 全自治体	×										
	④生活科見学の一環としてJR体験乗車及び駅業務見学の実施	自治体 JR北海道	○										
	⑤「COOL CHOICE」の取組みやノーマイカーデー等実施による鉄道利用促進	自治体	○										
(4) 他の交通機関等との連携	①バス、タクシー等との相互連携の推進 ア. ダイヤ改正時のダイヤの相互連絡の改善	全自治体 JR北海道 その他	○										
	イ. 鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み作りに向けた協議を実施	全自治体 JR北海道 その他	○										

取組内容	事業主体	目標達成	スケジュール									
			H29		H30		R1		R2			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
	②地域公共交通網形成計画の実施											
	ア. 駅を町内の交通拠点(交通結節点)として利用しやすい町内公共交通ネットワークを構築する。	自治体 JR北海道	○									
	イ. 鉄道とバス等を組合せた域内総合時刻表の作成・配布	自治体 JR北海道	○									
(5) 拠点としての駅の活用	①駅の交通拠点化	自治体	○									
	②観光案内所・売店の設置	自治体	○									
	③駅舎の整備											
	ア. 待合室の駅設備の改修	JR北海道	◎									
	イ. Wi-Fi環境の整備	JR北海道	○									
(6) 全道利用促進取組との連携	北海道鉄道活性化協議会との連携の検討	全自治体 JR北海道	○									
(7) 当社の行き届かない取組に対するご協力	駅的环境美化の取り組み	自治体	○									

2 生活利用

取組内容		事業主体	目標達成	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) お客様サービスの向上	サービスレベルの向上 ・大規模輸送障害発生時等の運休等情報内容の充実	JR北海道	○										
(2) 公共交通の利用促進	①乗車運賃等への助成制度導入												
	ア. 市民団体等と連携したイベント等の企画・実施・協力並びに活動団体に対する助成制度の創設	自治体	△										
	イ. 幼稚園、学校行事等に対する補助	自治体	△										
	ウ. 高齢者等の移動に対する運賃補助	自治体	○										
	②シンポジウム、意見交換会の実施												
	ア. 行事等で鉄道利用を促進・要請	自治体	○										
イ. 行事等での鉄道利用を実施する団体数増	自治体	○											

3 観光利用

取組内容	事業主体	目標達成	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 花咲線利用促進PR事業	花咲線利用促進PR事業への取組 「地球探索鉄道」花咲線の魅力向上や情報発信による 認知度向上	自治体 JR北海道	○										
(2) 普通列車を観光列車にする 取組	普通列車を観光列車にする取組	自治体 JR北海道	△										
(3) 道内外から花咲線にお越 しいただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施												
	ア. ひがしきた北海道キャンペーン等の継続 関連商品の増売	JR北海道 その他	○										
	イ. ご当地きっぷデザイン協力・販売協力	自治体 その他	○										
	ウ. 花咲線を意識したツアーの企画・実施	自治体 JR北海道 その他	○										
	エ. 花咲線と飲食店が連携した企画・販売	自治体 JR北海道 その他	○										
	オ. 首都圏での宣伝展開	自治体	○										
	カ. 旅行企画造成依頼	自治体	○										
	②閑散期の需要創出												
「フリーパス」等を活用した花咲線利用促進の取組	JR北海道	△											
③宣伝協力													
駅等での宣伝協力	自治体	○											

取組内容	事業主体	目標達成	スケジュール									
			H29		H30		R1		R2			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(4) 地域の皆様と連携した取組の推進	①観光資源の積極的な活用											
	ア. パンフレットやHPの作成連携	自治体	○									
	イ. 沿線自治体や観光協会等と連携したイベント等の企画・実施・協力	JR北海道 全自治体 その他	△									
	ウ. 特産品・グッズ等の企画・販売	JR北海道 その他	○									
	エ. 観光協会事業で花咲線列車を利用した事業の実施	自治体 JR北海道	○									
	オ. 観光イベント開催時において列車発着にあわせた無料シャトルバスの運行	自治体 JR北海道	○									
	②SNSでのJR企画等の情報発信	自治体 JR北海道	○									
③ご利用客へすずらん贈りもの	その他 JR北海道	○										

4 広域交通

取組内容		事業主体	目標達成	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 出張時の鉄道利用	官公庁・域内事業所等において、札幌などまでの出張時に、花咲線利用に取り組む	全自治体 JR北海道	○										

Ⅱ. 経費節減

取組内容		事業主体	目標達成	スケジュール							
				H29		H30		R1		R2	
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
(1) 設備の見直しやスリム化によるコスト削減	当社の行き届かない取組に対するご協力										
	ア. 駅前広場の除雪	自治体	○								
	イ. 駅舎内トイレ清掃	自治体	○								
(2) コストダウンの取組に対するご理解	① 極端にご利用の少ない駅の廃止についての各自治体との協議	全自治体 JR北海道	△								
	② 極端にご利用の少ない踏切の見直しについての各自治体との協議	全自治体 JR北海道	△								

Ⅲ. 第2期集中改革期間に向けた取組内容の検討

取組内容		事業主体	目標達成	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) あるべき交通体系について	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討の開始	全自治体 JR北海道 その他	△										
	②2次交通と連携に向けた検討 鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み 作りに向けた検討の開始	全自治体 JR北海道 その他	×										
(2) 中長期的な利用促進策について の検討	中長期的視野に立った利用促進策の検討	全自治体 JR北海道	×										
(3) 中長期的な経費節減策について の検討	中長期的視野に立った設備スリム化の可能性に ついて検討	全自治体 JR北海道	×										
(4) 中長期的な駅の活用策について の検討	中長期的視野に立った駅の活用策の検討	自治体 JR北海道	×										
(5) 中長期的な街づくりにつて の検討	駅を中心とした都心部まちづくりの検討	自治体 JR北海道 その他	○										
(6) その他地域の皆様と一体と なった取組	相互連携の検討	全自治体 JR北海道	×										

【別添資料】

(1) 関係市町村の状況

①総人口の推移[年齢別]	……	1ページ
②市町村別人口の推移	……	2ページ
③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移	……	3ページ

(2) 花咲線の状況

①沿線地図	……	4ページ
②沿革	……	5ページ
③諸元	……	5ページ
④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)	……	6ページ
⑤定期列車本数の推移	……	7ページ
⑥駅別乗車人員	……	8ページ
⑦列車別乗車人員	……	9ページ
⑧駅間別乗車人員	……	10ページ
⑨駅間通過人員	……	11ページ
⑩定期券発売枚数	……	12ページ
⑪線区別収支	……	13ページ
⑫土木構造物の概況	……	14～16ページ
⑬土木構造物の大規模修繕・更新費用	……	17ページ
⑭車両の更新費用	……	18ページ

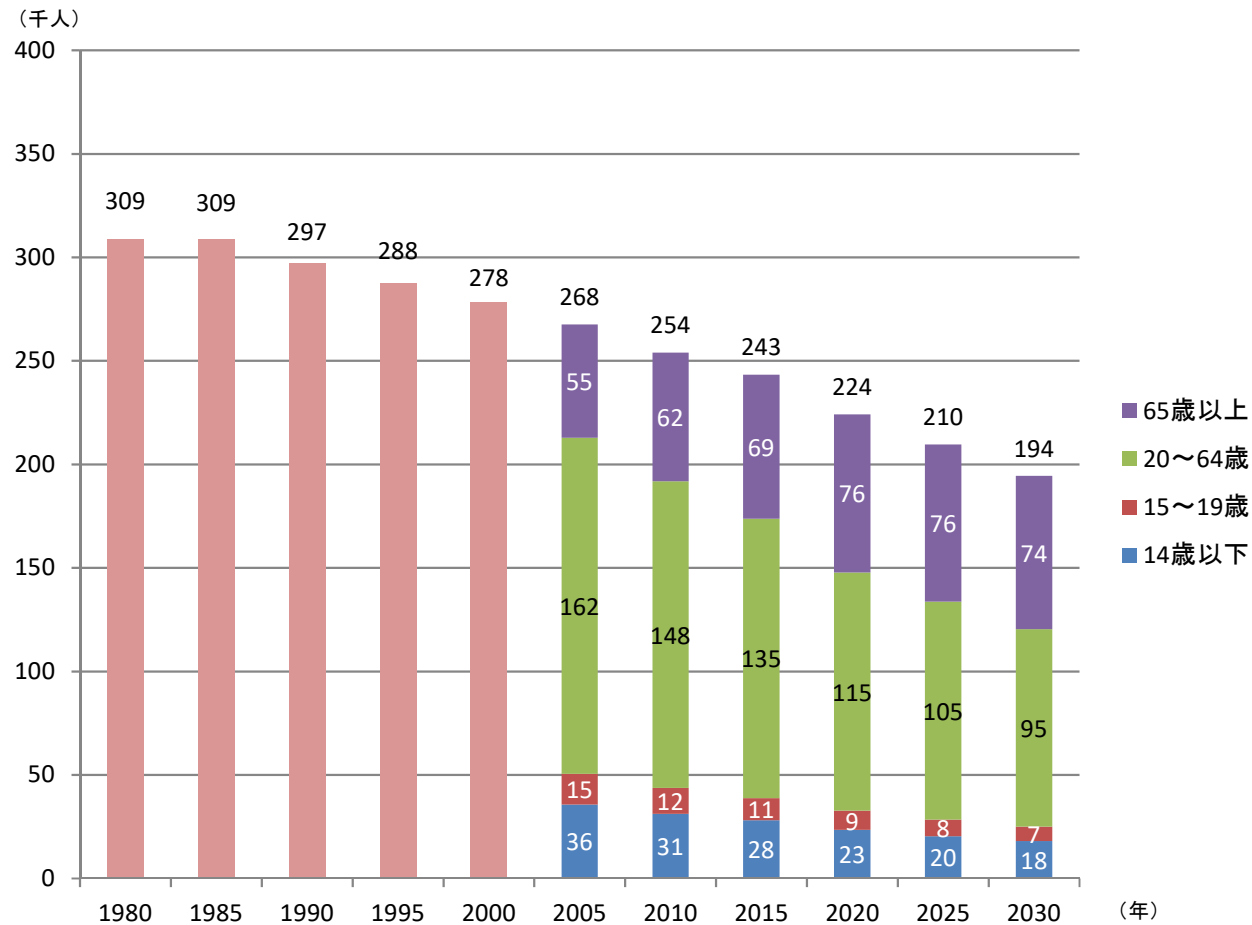
注)

各データとも令和元年度

- ④輸送密度 : ご利用されるお客様の1日1kmあたりの平均人数
- ⑥駅別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅ごとの人数(直近5年間の平均)
- ⑦列車別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の列車ごとの人数
- ⑧駅間別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅間ごとの人数
- ⑨駅間通過人員 : きっぷの発売状況に基づく、1日あたりのお客様の駅間ごとの人数
- ⑩定期券月平均発売枚数 : 1か月あたりの各駅相互間の通勤・通学定期券の発売枚数

(1) 関係市町村の状況

① 総人口の推移〔年齢別〕



(出典)

- ・2000年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
 - ・2005年～2015年 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】
 - ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
- ※2005年以前の釧路市には阿寒町・音別町の実績を含む。

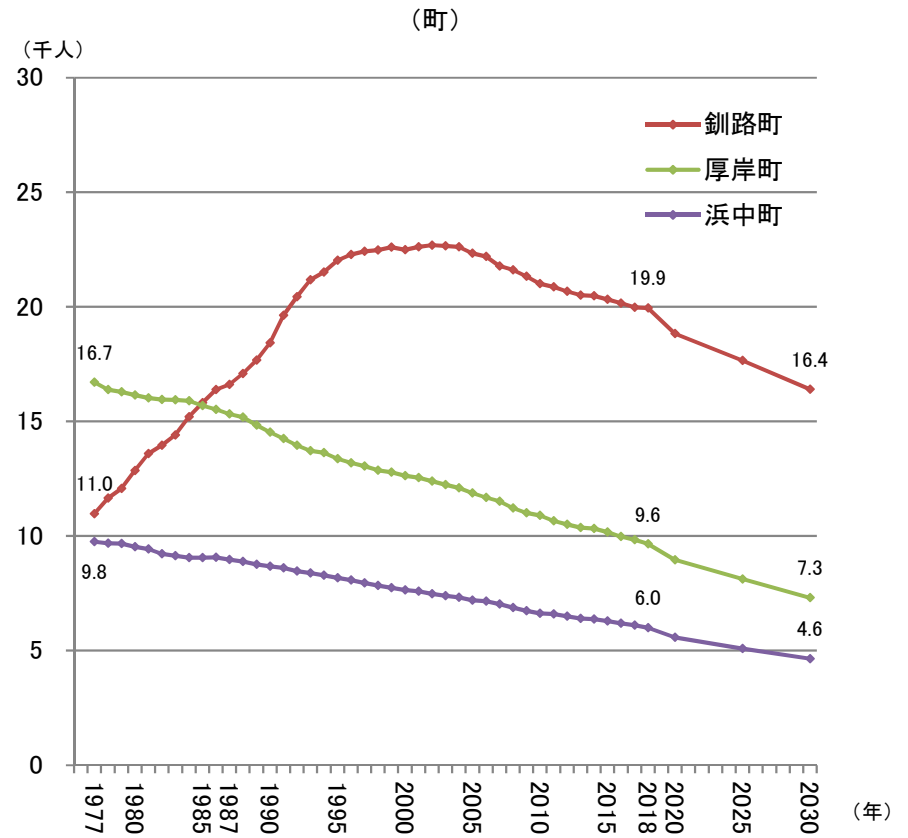
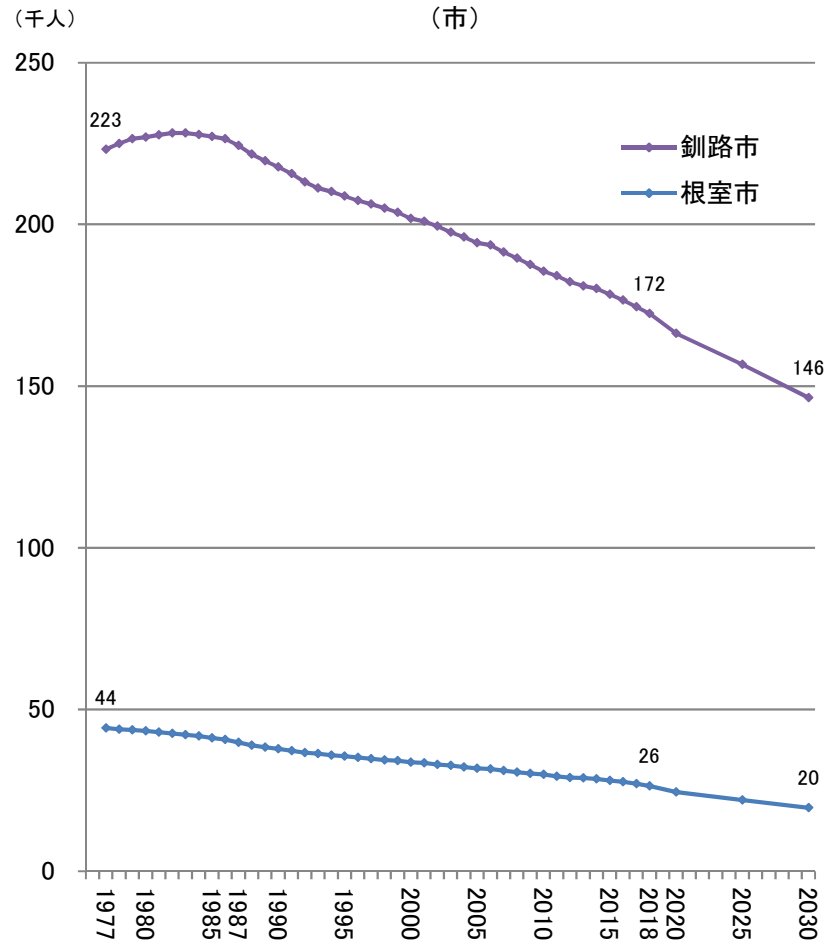
花咲線(釧路～根室間)の関係市町村の総人口は、約23.4万人(2018年)である。

その推移をみると、全体的に減少傾向が続いており、JR北海道発足時(1987年)と比較すると、2018年で23.2%減少し、2030年(推計)では36.3%減少が見込まれる。

年齢別では、年齢別人口が公表された2002年と比較すると65歳以上が増加しており、2018年で49.1%増、2030年(推計)では同じく49.1%増が見込まれている。一方で、通学定期の主な対象者である15～19歳は2018年で-37.1%、2030年(推計)では-57.7%と半減することが見込まれている。

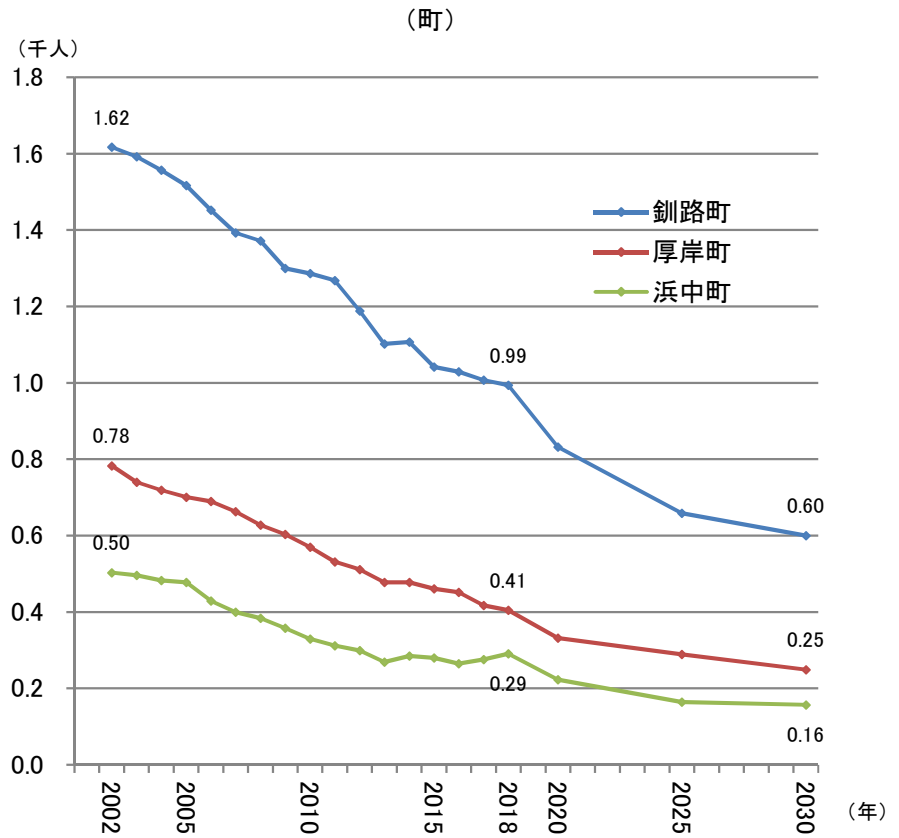
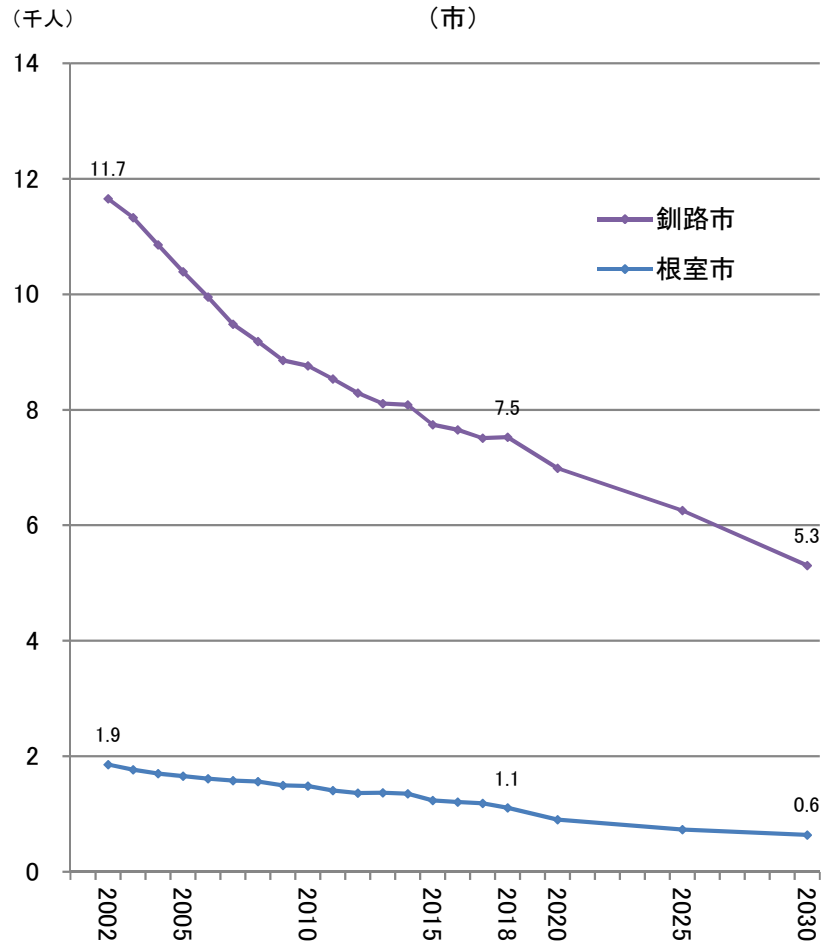
市町別では釧路町を除く市町で人口が減少しており、今後も減少が予測されている。また釧路町も2003年以降は減少に転じている。15～19歳の人口は、各市町村とも大幅に減少しており、今後もさらに減少することが予測されている。

②市町村別人口の推移



(出典)
 ・2018年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
 ※2005年以前の釧路市には阿寒町・音別町の実績を含む。

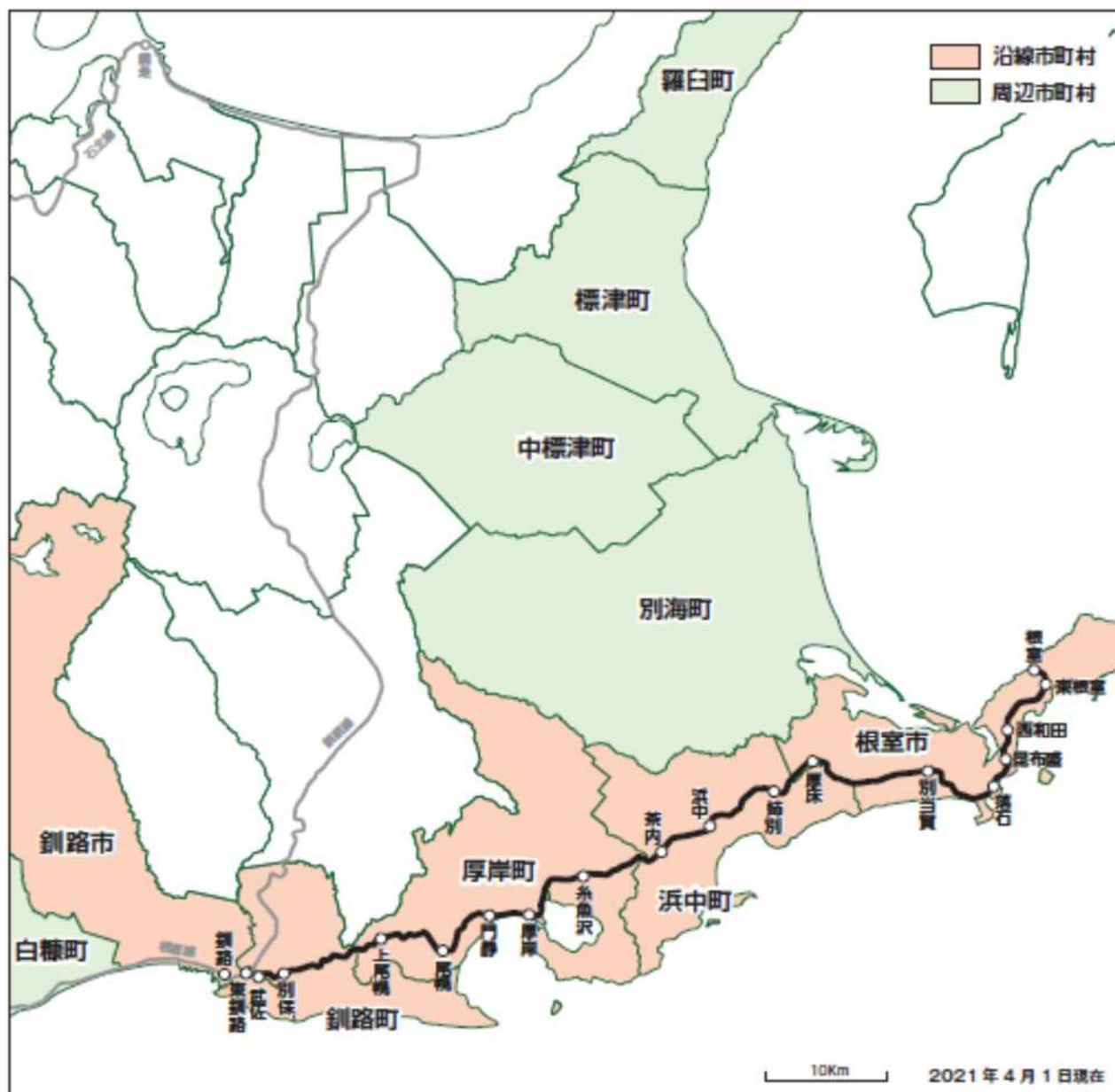
③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移



(出典)
 ・2018年以前 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
 ※2005年以前の釧路市には阿寒町・音別町の実績を含む。

(2) 花咲線の状況

① 沿線地図



②沿革

- ・花咲線釧路・根室間は、釧路より根室に向かって段階的に開業しながら、1921年（大正10年）に全線が開業しました。全線が開業して100年を経過しています。主な開業年と開業区間は下表の通りとなっています。

開業年	開業区間
1917(大正6)	釧路～厚岸
1919(大正8)	厚岸～厚床
1920(大正9)	厚床～西和田
1921(大正10)	西和田～根室

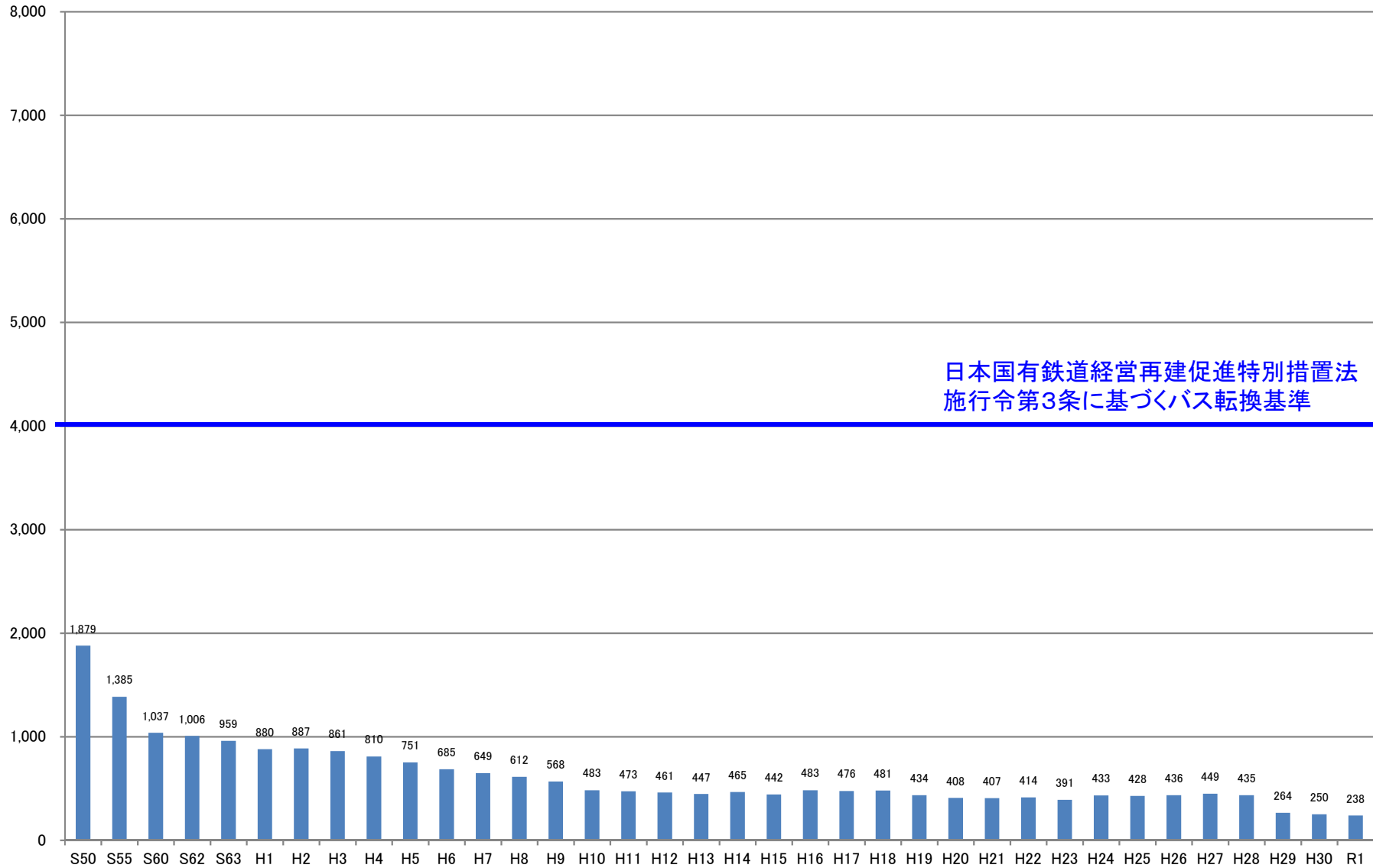
③諸元

- ・ 区間 釧路～根室
- ・ 営業キロ 135.4km
- ・ 列車本数 上下16本
- ・ 駅数 19駅（うち有人3駅）
- ・ 沿線自治体 釧路市、釧路町、厚岸町、
浜中町、根室市
(2021年4月1日現在)

④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)

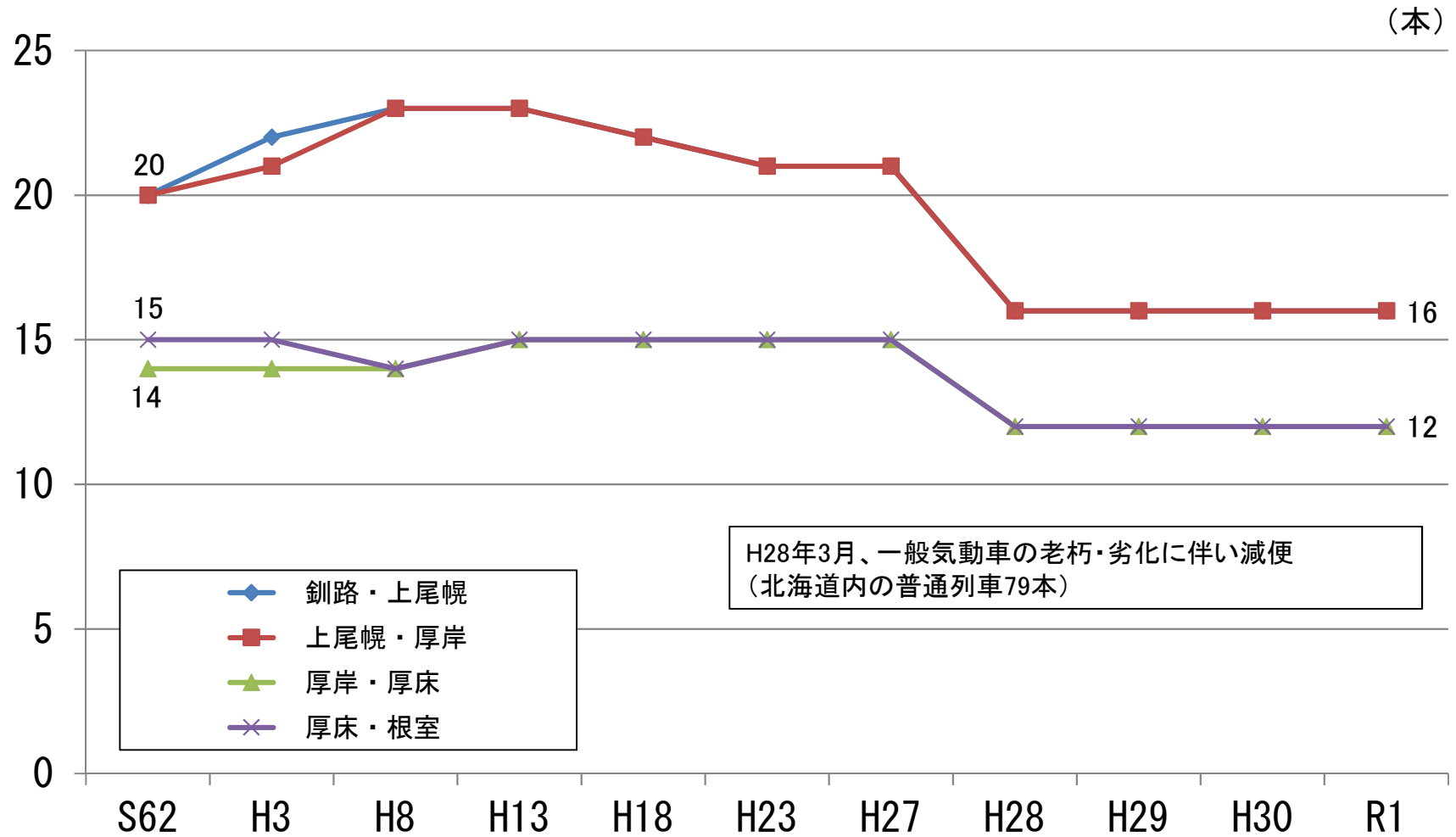
■花咲線(釧路・根室間) (昭和50・55・60年度、昭和62年度～令和元年度)

(人/キロ/日)



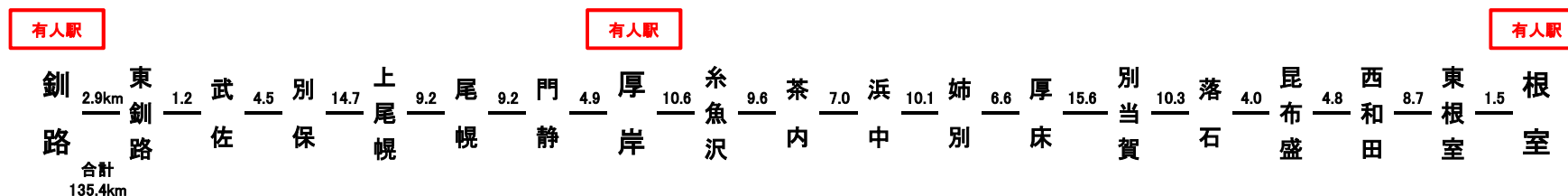
⑤定期列車本数の推移(各年4月時点の本数)

■花咲線(釧路・根室間)

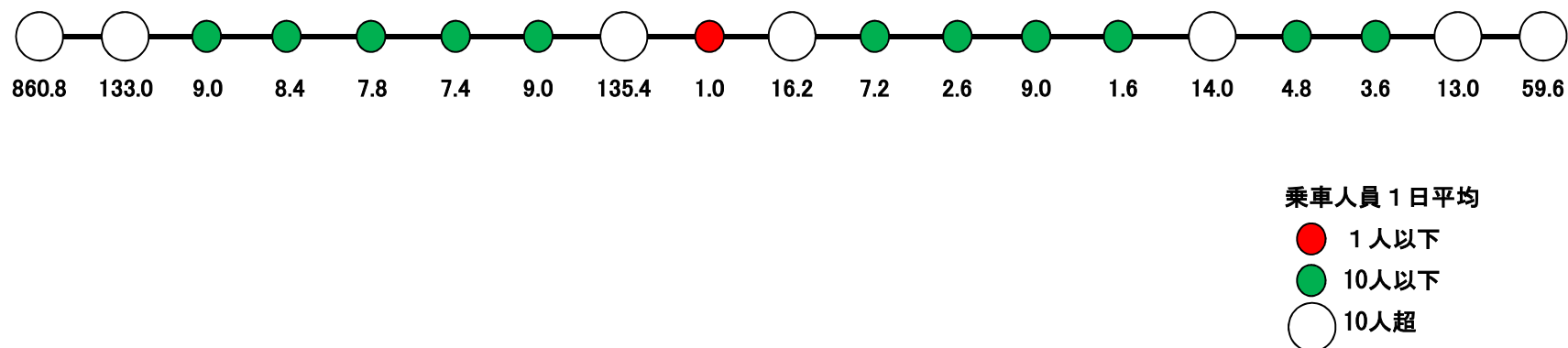


⑥ 駅別乗車人員(特定日調査(平日)に基づく)

■ 花咲線(釧路・根室間)



駅別乗車人員(H27-R1の5年平均)



⑦列車別乗車人員(令和元年度特定日調査(平日)に基づく)

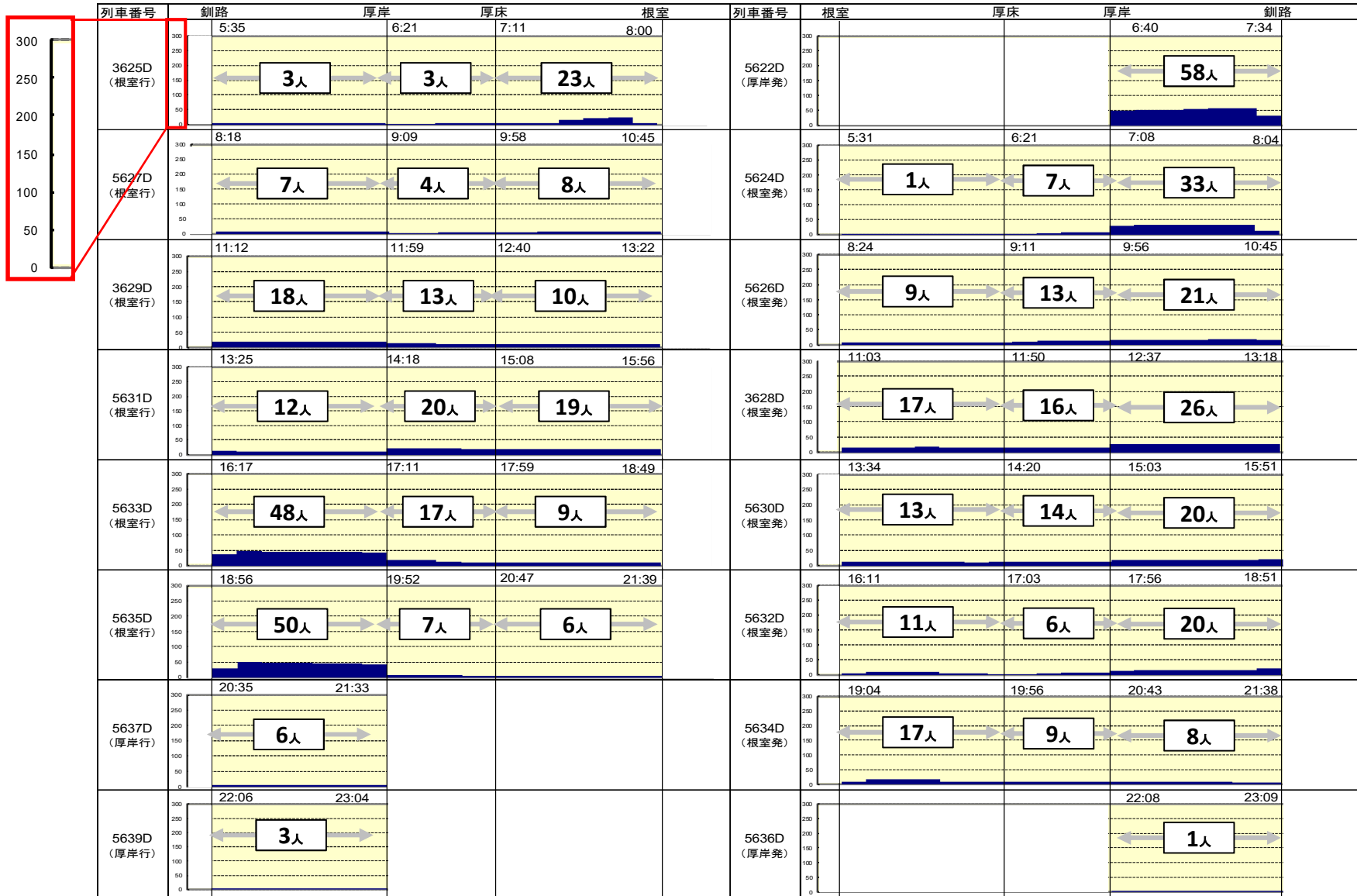
■花咲線(釧路・根室間)

人数は区間における最大乗車人員

◆下り列車(釧路⇒根室)

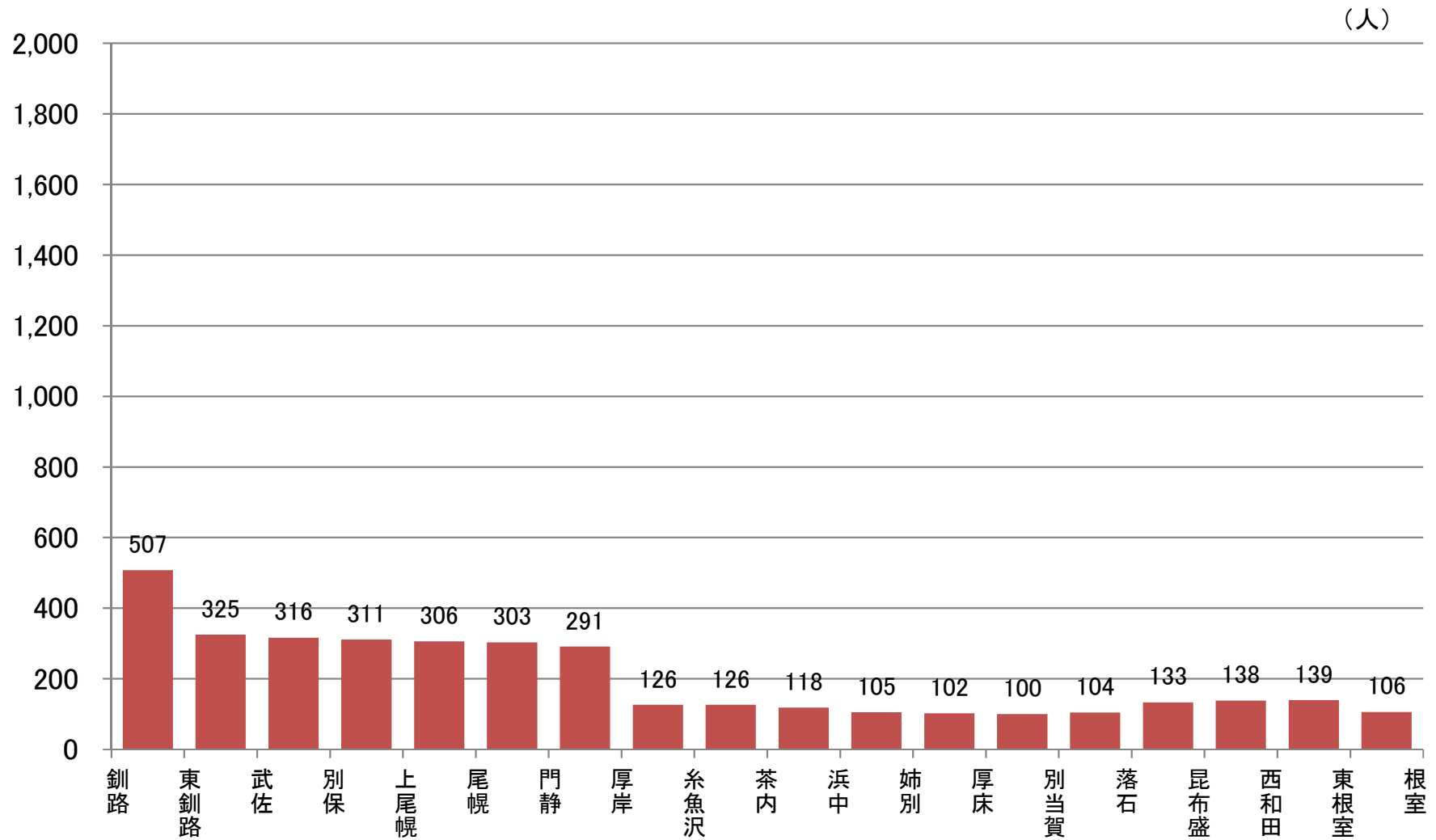
◆上り列車(根室⇒釧路)

(人)



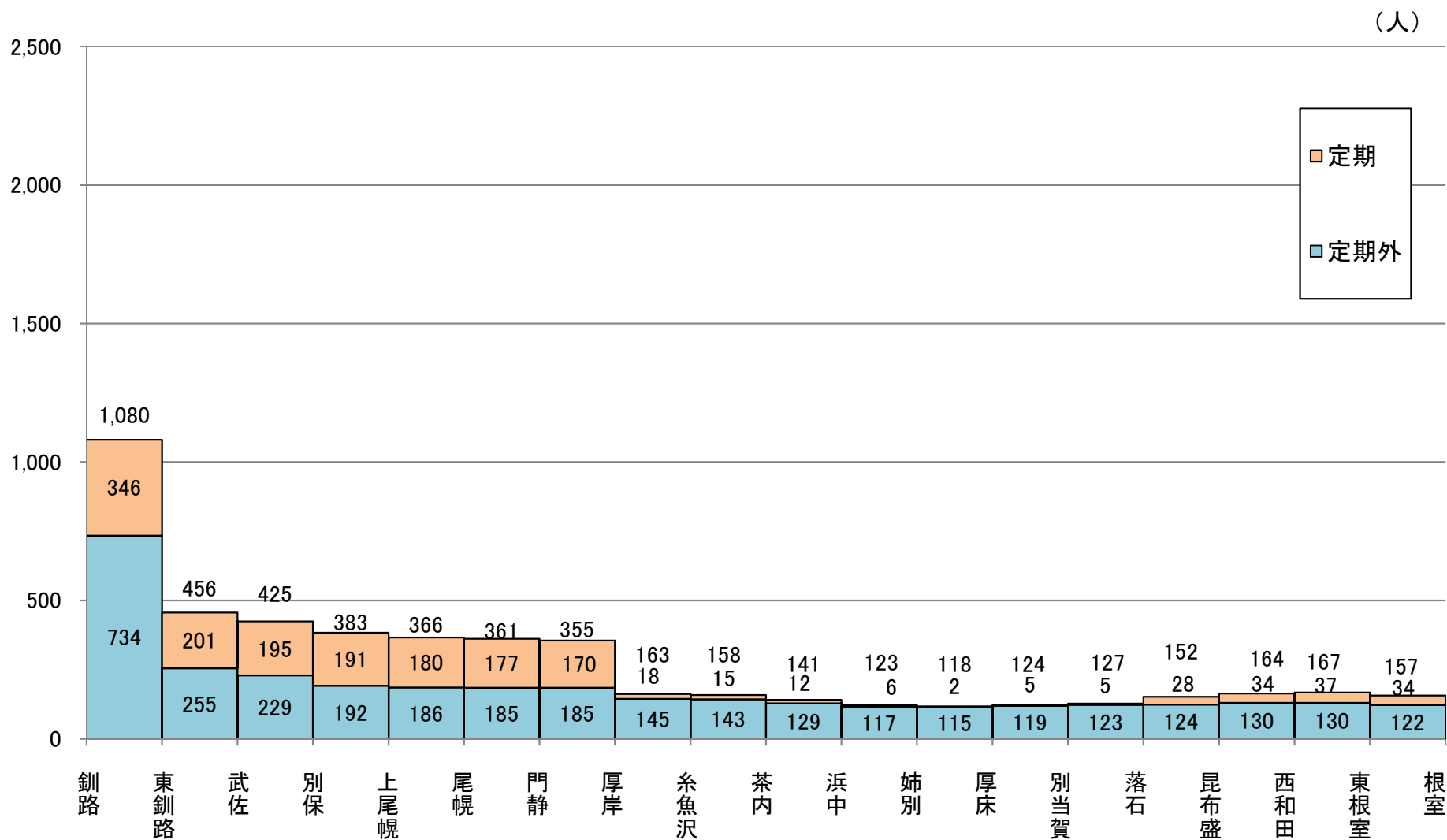
⑧駅間別乗車人員(令和元年度特定日調査(平日)に基づく)

■花咲線(釧路・根室間)



⑨ 駅間通過人員(1日あたり平均(令和元年度))

■ 根室線(釧路・根室間)



※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

⑩定期券発売枚数（令和元年度）

■花咲線(釧路・根室間)

(単位:枚)

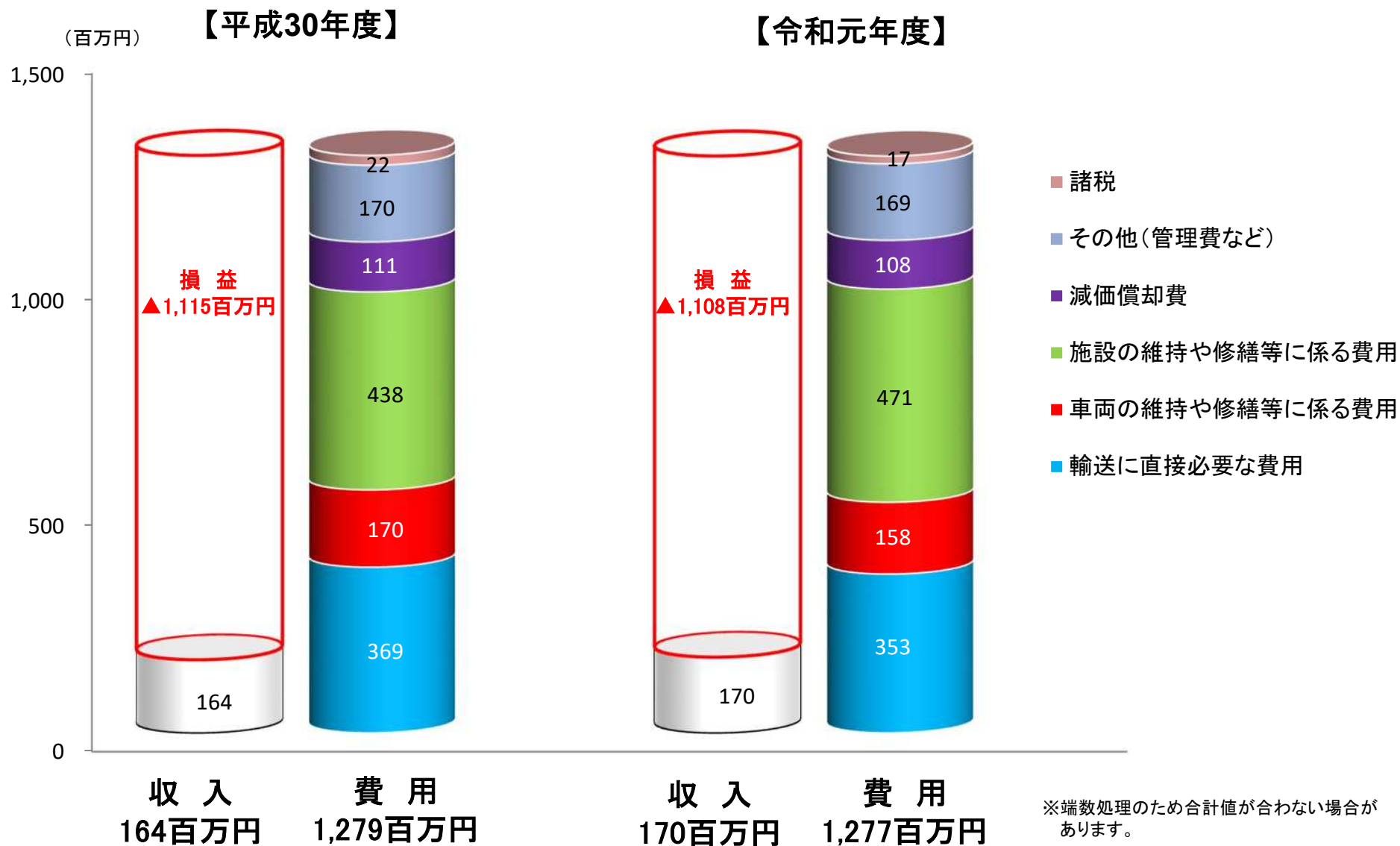
	釧路	東釧路	武佐	別保	上尾幌	尾幌	門静	厚岸	糸魚沢	茶内	浜中	姉別	厚床	别当賀	落石	昆布盛	西和田	東根室	根室	合計
線区外 (釧路以遠)		8.4 0.3	1.3	0.1				3.5												13.3 0.3
釧路				0.1	4.6		2.7	69.9	0.9	1.7	1.5	0.8								82.1
東釧路		3.5	1.8		0.8	1.8	0.6	1.4												9.8
武佐				1.8				4.3	0.3	0.8										7.3
別保								0.1												0.1
上尾幌																				
尾幌																				
門静																				
厚岸										0.1	1.8	1.0								2.8
糸魚沢																				
茶内													1.0							1.0
浜中																			0.2	0.2
姉別																				
厚床																		1.0	1.0	2.0
别当賀																			0.1	0.1
落石																			1.0	2.0
昆布盛																			0.1	0.1
西和田																				
東根室																				
根室																				
合計		8.4 3.8	1.3 1.8	1.9 0.1	4.6 0.8	1.8	2.7 0.6	77.7 1.5	1.3	2.5 0.1	1.5 1.8	0.8 1.0	1.0					1.4	16.9 0.3	120.9 14.4

凡例: 通学定期券月平均発売枚数
 通勤定期券月平均発売枚数

※1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計
 ※経路は最も安価な経路で集計
 ※小数点第1位未満は四捨五入

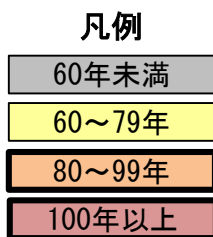
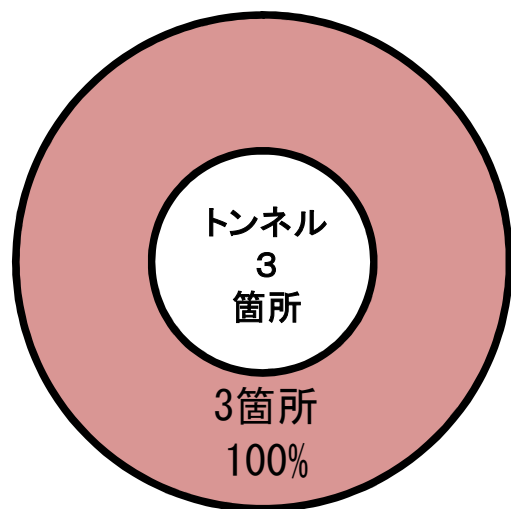
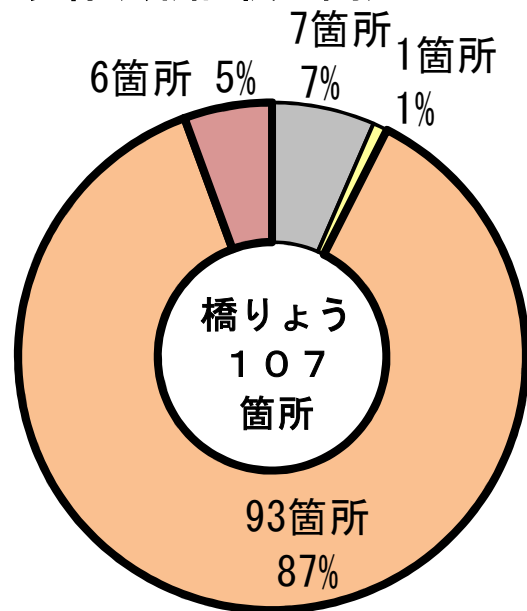
⑪線別収支

■花咲線(釧路・根室間)

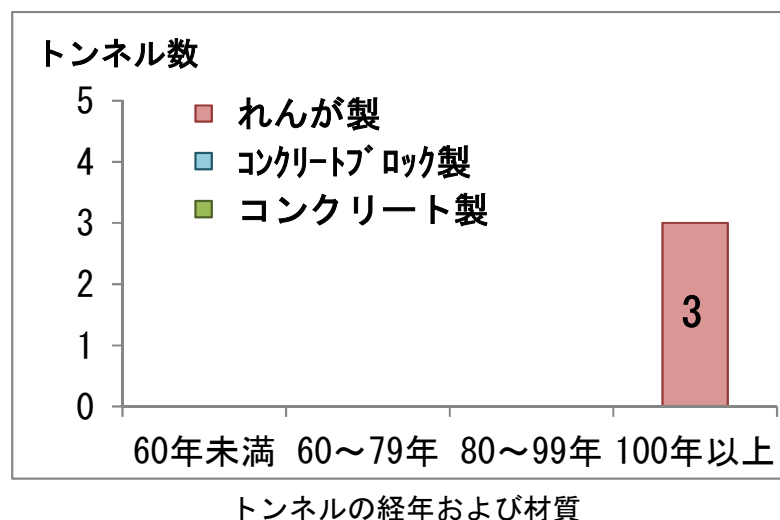
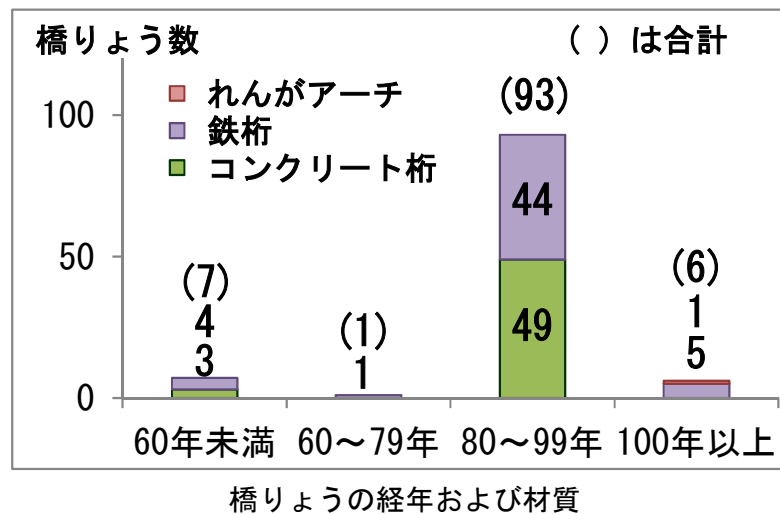


⑫土木構造物の概況

■花咲線(釧路・根室間)



※平成29年1月現在



(大規模修繕・更新の一例)

○ 橋りょう

【鋼橋の腐食対策】

花咲線 釧路・根空間: 6億円

- ・ 広範囲にわたって腐食が進むと、橋りょうの寿命が短くなる
- ・ 経年の進行を踏まえ、鋼橋を永続的に使用するため、定期的な塗装の塗替えを実施



腐食が発生した橋りょう

(例: 根室線 東滝川・赤平間 第3空知川橋りょう)

【鋼橋の亀裂対策】

花咲線 釧路・根空間: 2億円

- ・ 経年が進むにつれて、桁に亀裂が発生することがある
- ・ 亀裂発生を防ぐ予防的な措置として、亀裂の原因となる橋桁を支える台座部分(支承部)の不具合の修繕を事前に実施



亀裂が発生した橋りょう

(例: 石北線 丸瀬布・瀬戸瀬間 金山湧別川橋りょう)

(大規模修繕・更新の一例)

○ トンネル

【覆工材料の劣化・剥落対策】

花咲線 釧路・根室間: 21億円

- れんが等で造られた古いブロック積みトンネルは、ブロック本体およびブロック同士をつなぐ目地材料の劣化が進んでいる
- れんが等の覆工材料の剥落を防止し、トンネルの寿命を延ばすため、覆工の改築・補強工事を実施



ネットによる
落下防止

劣化したれんがトンネル

(例: 石北線 生田原・西留辺薬間 常紋トンネル)

⑬土木構造物の大規模修繕・更新費用

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

	設備概況		費用内訳(単位:億円)			
	種別	数量	項目	数量	費用	計
花 咲 線 釧 路 ・ 根 室 間	橋りょう	107橋	①鋼橋の腐食対策	54橋(95連)	6	8
			②鋼橋の亀裂対策	19連	2	
	トンネル	3箇所	覆工材料の劣化・剥落対策	3箇所	21	21
	経年進行に伴う恒常的な維持管理費用の増加				1	1
	計				30	30

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

⑭車両の更新費用

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる車両の更新費用

1 車両の現状及び更新の考え方

- ・ 全車両が更新時期を迎えるため、新製車両への更新が必要
- ・ 一般用の新製車両については、現在試作車を製作中である電気式気動車を想定

2 今後20年間の車両更新費用

1の考え方に基づき算出した今後20年間の車両更新費用は以下のとおりです。
なお、更新車両数は平成29年4月時点のダイヤを前提として算出しています。
また、観光列車用（ノロッコ号、SL等）の車両は含んでいません。

(単位:両、億円)

線 区	更新車両数	車両更新費用
花咲線(釧路～根室間)	6	12

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。